

# 研究助成 研究成果報告書（HP掲載用）

研究課題名：緩和ケアにおける栄養サポートの現状 —アンケート調査—

東京医科歯科大学 腰本さおり

## 【研究要旨】

本研究は、緩和ケアにおける管理栄養士の役割を調査し、栄養サポートの現状を明らかにすることを目的とした。がん診療連携拠点病院・地域がん診療病院で緩和ケアに携わる管理栄養士を対象に質問紙調査を実施した。がん悪液質ケアで管理栄養士として役割を果たしているとの認識は、臨床経験だけでなく、診療ガイドラインの利用、がん悪液質の検査項目数、がん悪液質ケアのトレーニングと関連していた。

## 【研究目的】

本研究は緩和ケアの一環でがん悪液質における管理栄養士の役割を調査し、栄養サポートの現状を明らかにすることを目的とした。

## 【研究方法】

がん診療連携拠点病院（405施設）・地域がん診療病院（46施設）で緩和ケアに携わる管理栄養士を対象に、無記名の自己記入式質問紙調査を実施した。質問は、臨床経験年数、担当患者数、診療ガイドラインの知識と利用、がん悪液質を評価するための症状、がん悪液質の検査項目数などで構成した。

## 【研究結果】

451施設のうち264人の管理栄養士から回答があり回収率は59%であった。そのうち適格基準を満たす237人を解析対象とした。年齢の中央値は42歳、女性は214人（90.3%）であった。がん悪液質ケアで管理栄養士として役割を果たしているとの認識は、臨床経験だけでなく、診療ガイドラインの利用、がん悪液質の評価項目数、がん悪液質ケアのトレーニングと関連していた（ $p<0.05$ ）。一方、がん悪液質ケアの重要性を認識していても、評価できていない検査や症状があった。

## 【考察】

診療ガイドラインに基づいてがん悪液質を評価すること、がん悪液質ケアのトレーニングを受けることが、管理栄養士として役割を果たしているという認識につながることが示唆された。緩和ケアに携わる管理栄養士のがん悪液質に関する知識とスキルの向上により、質の高い栄養サポートの提供につながる可能性がある。

## 【結論】

緩和ケアに携わる管理栄養士が役割を果たすためには、診療ガイドラインを利用すること、がん悪液質の評価を実践すること、がん悪液質ケアのトレーニングを受けることが必要である。